

2-1 垣花 譲二 ハイサイおじさん カチャーシ

指笛音楽誕生75周年記念という節目の研究発表会に、沖縄から初めて参加できることを光栄に思います。力不足ではありますが、沖縄の指笛の明るさを表現したいです。楽友会の皆様との交流も楽しみです。指笛の普及、発展をめざし4年前の7月10日に「指笛王国おきなわ」を建国。8月27日には吉田重雄さんと一緒に練馬区の田村大三先生のお宅を訪ね、田村先生ご夫妻とお会いし、感激し、決意を新たにすることが思い出されます。



2-2 倉木 成伊知 ベイパームーン 酒とバラの日々

指笛を始めてからもう16年になりますが、最近は、忙しさにかまけて、ほとんど練習もしなくなっ
てしまい、まともな音も出ない状態でした。ところが去年と今年、たて続けに息子と娘の結婚式で指
笛を演奏する機会があり、みなさんに喜んでもらって、指笛の楽しさを思い出しました。その後も時々、
カラオケボックスで練習しています。久しぶりの発表会出演ですので、少し緊張しそうですが、晴れ
舞台での演奏を楽しみたいです。



2-4 斎藤 秀元 夜明けの歌 ラ・ノヴィア

若き日の思い出の曲「夜明けのうた」は夜間高校時代に級友が学校祭で独唱した歌である。何と力強
く胸を打つ歌だと感激した。卒業後彼とは交流が途絶えたが、偶然にも二人とも障害児学校の教師
となって再会した。「ラ・ノヴィア」は高等部生徒の九州方面修学旅行に付き添った時、重度障害を負
うS君がバスの中で「アヴェマリア…」といい声で歌ったのが忘れられない。彼は卒業後数年して天
に召されて逝った。彼のずっしりした重みが今も私の背中に残っている。



2-5 中村 倫二 夜明けの歌 マイ・ウェイ

普通に健康であり歌が唄える方は誰でも指笛は吹けます。肺活量を気にする必要ありません。あ
なた自身が楽器です。人差し指が管楽器のマウスピースであり、木管楽器のリードであり、弦楽器の
弓であり打楽器のバチなのです。口の中に指を入れて息を出す。それが感動の始まりです。



2-6 松谷 茂 儂し愛の誓い 平城山

私にとって指笛音楽は、年齢が上達(?)することに反比例して力量の上達が鈍くなり、代わりに健
康維持の役割の方が大きくなりつつあると感ずる昨今です。それはそれで結構・・・。

2-7 竹中 速雄 愛のまっで イエスタディ

自分の持っている時間や得意分野で、少しでも地域の方々へお役にたつような活動をしたい、とい
う思いが私のボランティア活動の動機となっています。田村先生、静海先生、諸先輩からご指導をい
ただいた指笛演奏は、いろいろな地域の学校や施設で受け入れられて、年々活動が広がっています。
沢山の方々との出会いは私のかけがいのない宝物となっています。感謝です。



2-8 杉田 隆則 ラストダンスは私に 千の風になって

指笛と吹き矢の話ですが、ラジオで吹き矢が心身に良いと云ってました。メロディーが有り、リズム
と情感が得られる指笛はもっといいのではないのでしょうか。きっと前頭葉がOKを出すはずです。今
年の3月ライブの為に始めた「山籠りトレーニング」そのまま続けて来ましたので、今回は少しチュ
ーニングが変化していると思いますがいかがでしょうか。



2-9 水沼 武彦 鳥のうた わがゆくみち

私にとって、指笛音楽とは人生そのものと思われるようになりました。その理由を申し上げます。指
笛音楽は口笛に指が加わったものと考えられます。口にとっては、指という大きな異物が入って来て、
音を出し、歌をうたえといわれるのですから困ってしまいます。しかし、これを受け入れ、馴染ませ、
それから主に舌、唇、指等を生かし、そして身体全体が生かされあうとき独特な音が生れ、歌がうた
えるようになるのです。人生には予期せぬことがやってきますが、それを受け入れ、馴染み、生かす
ことができれば幸せであり、歌える人生となると思うからです。

